

次々につなぐ

進む企業の社会貢献

OKIは日本語の絵本にラオス語訳をほり、現地の小学校に無料配布している。ラオス出身でOKIのソフトウェア関連会社に勤務するハイマニー・ハッサワンさんはこの取り組みに参加する社員の一人。「私が小さい時はラオス語の絵本を読みたくても読めなかった」と幼少時代を振り返る。

活動を支えるのはNPO法人「ラオスの子ども」

O K I

—13

だ。ラオスでの絵本出版や図書館開設などを支援している。「新聞普及率は隣国ミャンマーの5分の1程度。文字を読む教育が遅れており、ラオス語の絵本は極端に少なく識字率が低

る」(同)。一方、OKIも「絵本一冊の効果は1でなく読みつがれることで10にも20にもなる」(柴田和佳子CSR部長)と取り組みの手応えを感じてい

る。7月前半の土曜日、OKI日本社にハッサワンさんを始め、社員やボランティア論を学ぶ学習院女子大学の学生ら32人が集まった。机に並ぶ絵本を手に「ラオス語絵本づくり」がスター

ラオスの子どもに笑顔を

い」(野口朝夫事務局長)という。

同法人が現地で出版した絵本や紙芝居は約70万冊にのぼり、日本から送ったラオス語訳の本は約5000冊。そのうち「OKIさんは539冊を作り、識字能力の向上につながってい



はさみとのりを使い分け丁寧に絵本

をラオス語バージョンに変身させる

ト。はさみとのりを使い分け絵本を丁寧にラオス語バージョンに変身させた。OKI टीータの小谷清欧州・米州市場部長は「シンガポールの駐在経験があり、東南アジアに思い入れがあった」と参加の動機を語る。「社会貢献活動は企業の業績が潤っているときだけでなく、地道に続けることが大事」と柴田部長。今回、作成した68冊の絵本は8月にも現地に届けられる。

「かわいい絵がたくさん本に子どもたちはぎっと喜ぶよ」とハッサワンさん。その目には海の向こうで喜ぶラオスの子どもたちの笑顔が、すでに浮かんでいるようだった。

(柿崎誠)

絵本を翻訳 識字率向上に一役